

2020年10月1日

2021年度ハンドボール競技規則改訂における「ボール規程」変更に関して（第四報）

指導普及本部長 三輪 一 義
競技本部長 高野 修
審判本部長 福島 亮 一

これまで『2021年度ハンドボール競技規則改訂における「ボール規程」変更に関して』については、4月1日に第二報、8月1日に第三報の発信をしまりました。（別添資料）

第三報において、「10月1日に第四報を発信し、その際に、最終決定通知をする」とのお約束をしておりました。8月1日に第三報を発信して以降、日本および世界における新型コロナウイルス感染の社会状況の推移を見ながら、検討会議を重ね、直前においては9/21に小学生専門委員会、9/25に中学生専門委員会をそれぞれ開催するとともに、検定メーカーであるモルテン社と9/23に、ミカサ社と9/24に、それぞれZOOM会議を行い、開発・製造・流通の見通しや海外工場の現状について情報交換を致しました。

その結果、小学生専門委員会および中学生専門委員会としては、『2021年4月以降の実施時期』について、2021年4月からの開始は課題が多く、実施時期を延期すべきという結論に至りました。このことについては、11月14日開催の2020年第2回理事会で改めて機関決定をいたします。

よって、ボール規程の変更の実施時期、全国大会での公式球としての適用年については、理事会決定を受けて後、2020年11月15日に<第五報>として詳細発表をさせて頂くこととします。

2020年8月1日

2021年度ハンドボール競技規則改訂における「ボール規程」変更に関して（第三報）

指導普及本部長 三輪 一 義
競技本部長 高野 修
審判本部長 福島 亮 一

2020年4月1日付文書『2021年度ハンドボール競技規則改訂における「ボール規程」変更に関して（第二報）』にて、ボール規程変更のお知らせをするとともに、4月1日時点での状況を踏まえて、8/1に第三報の発信をお約束させて頂きました。（別添資料）

8月1日現在、日本および世界における新型コロナウイルス感染拡大は収束の見通しが見えません。日本では5月中旬に緊急事態宣言が解除され、“新しい生活様式”と共に社会活動が取り戻される兆しが見えましたが、全国全域で再び感染者数が増加傾向にある等、社会状況が混沌としています。

ボール規程変更に関わる内容としては、8月中旬から中国で開催予定であった第8回女子ユース世界選手権が、9/29からクロアチアに変更になっていたものの、再び開催延期が発表されました。この大会ではIHFが新规定の<Handballs played without resin>を公式試合球として採用し、世界発表をする予定にしていた大会でもあったため、IHFの計画も修正を余儀なくされている状況です。

4月1日時点で検討課題になっていた『ボールの開発・生産・流通への影響、日本協会検定球としての認証、新しいボールの購入可能時期、そのボールでの練習期間等について』も、4ヶ月経過した現在でも大きな進展はないことから、現時点で何らかの判断を下すことは困難な状況であります。

しかしながら、日本協会として小・中学生女子のボールサイズ変更は、議論の過程からもなるべく早く移行することが望ましいとの考えには変わりがなく、【新しいボール規程の採用】と【小・中学生女子のボールサイズ変更】の実施時期について、小学生専門委員会・中学生専門委員会を中心に、改めて議論を重ねております。

現在のコロナ禍の推移を見極めながら、日本および世界の社会状況を踏まえて、『2021年4月以降の実施時期』についての最終判断を、2020年10月1日に<第四報>として発表させて頂くこととします。

（第四報が、全国大会での公式球として、何年度のどの大会から「ボール規程」の適用をするかについての決定通知となります。）

2021年度ハンドボール競技規則改訂における「ボール規程」変更に関して（第二報）

指導普及本部長 三輪 一 義
競技本部長 高野 修
審判本部長 福島 亮 一

国際ハンドボール連盟（以下 IHF）は、2019/8/2 に新たな IHF Ball Regulation を発表しました。（添付資料 1 参照）。それによると、

<Handballs played with resin>、<Handballs played without resin>、<Handballs for beginners> という 3 つの種類ボールを規定するものです。今まで通りに松ヤニの使用を前提にした規程に加え、松ヤニの不使用を前提にサイズ・重量を小さくした規程と、これまでなかったビギナーズ向けのサイズ・重量（0 号球・00 号球）を明文化したものが発表されました。

この発表に先駆ける形で、日本ハンドボール協会小学生専門委員会では、小学生用ボールのサイズ・重量が IHF 規程と異なることに対して、2015 年より議論を重ねてきた経緯があります。一方、日本の育成年代におけるボールサイズに関する議論は、全国 JOC 大会において男子 3 号球が採用された 2013 年より本格的になり、中学生専門委員会において組織的な議論が繰り返されてきました。両委員会ともに、全国大会等でアンケート調査を繰り返し、現場の意向を掴みながら、小中学生における適正なフォーム並びに技術獲得にはどのようなボールが望ましいかを探ってきた歴史があります。

2019 年 8 月に IHF が新たな Ball Regulation を発表したことを受け、2019/12/22 の中学生専門委員会と 2020/1/18 の小学生専門委員会、ならびに 2020/2/1 の競技審判合同委員会の合意を経て、2020/2/15 の第三回理事会において、以下の 3 点について決定をしました。

①【小・中学生女子のボールサイズ変更】

日本における中学生女子ボールサイズを 1 号球に、小学生女子ボールサイズを 0 号球に変更する。

②【新しいボール規程の採用】

育成年代にあたる小・中学生においては、ボールサイズ・重量について IHF が新たに規定した <Handballs played without resin> に則ったボールを認定球とする。

③【適用の実施時期】

上記規程の適用は、2021 年 4 月以降とするが、現場への予告は 2020 年 4 月とする。

適用の実施時期は、2021 年 4 月以降としておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の世界的状況を踏まえると、現時点では、ボールの開発・生産・流通への影響、日本協会検定球としての認証、新しいボールの購入可能時期、そのボールでの練習期間等について、改めて各方面と検討しなければなりません。全国大会での公式球として、何年度のどの大会から「ボール規程」の適用をするかについては、2020 年 8 月 1 日に改めて<第三報>を発表する予定です。